

人間関係学科社会福祉専攻 カリキュラム・マップ(2019年度入学生)

科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
						◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)										
社会福祉学演習1	演習	1	2	1年生を対象とした少人数での演習形式による参加型授業(学生と教員がともに主体的に進めていくもの)であり、社会福祉学への専門導入演習である。福祉に関する新聞記事をさがし、その内容を要約するとともに、感想やコメントについて、プレゼンを行い、全員でディスカッションを行うことで、福祉問題記事を「読み」「書き」「発表し」「議論する」スキルを身につける。	1. 自ら主体的に学習を進めていく習慣を身につける。 2. 自ら主体的に学習を進めていくためのスキルを身につける。 3. 身近なことから福祉についての興味や関心をもつことを日常化する。 4. 福祉問題の現状や背景を理解し、解決策について考える力を身につける。	◎		○		
社会福祉学演習2	演習	1	2	1年生を対象とした演習形式の授業(学生と教員がともに主体的に進めていくもの)であり、社会福祉学演習1に引き続き、社会福祉学への専門導入セミナーと位置づけられる。具体的にはグループワークを通じて、研究テーマを設定し、調査やプレゼンテーションを通じて、研究活動に必要な基礎的な態度・手法等を養成する。	1. 他者と協働して学習を進めていく態度・手法を身につける。 2. 自ら主体的に学習を進めていくためのスキルを身につける。 3. ディスカッションを通じて議論を深める経験を身につける。 4. 福祉問題の現状や背景を理解し、解決策について考える力を身につける。	○	◎	○	○	○
社会福祉学演習3	演習	2	2	社会福祉学に関するテーマについて、文献・資料等による調査、プレゼンテーションや討論を通じて学術的な研究論文を作成する基本的な考え方、技術を獲得することに目的をおく。	1. 社会福祉学に関する現代の事象を理解し、研究テーマを設定する。 2. 研究論文執筆に必要な文献収集と精読の方法を身につける。 3. 情報・研究リテラシー、著作権に関して正しい理解を得る。 4. 6000字程度の研究論文を執筆する。	◎	○	◎	○	○
社会福祉学演習4	演習	4	2	各自で設定した研究テーマ・計画に基づき、卒業論文の作成を進める。社会福祉学演習4に引き続き、プレゼンテーションやディスカッションを通じ自身の研究論文を精緻化していく。また、必要に応じて個別指導の時間を別途設定する場合もある。	1. 策定した研究計画に沿って、研究活動を遂行する。 2. 中間報告会等を活用して、研究内容に関するプレゼンテーションを実施する技量を身につける。 3. 研究論文を執筆する。	◎	○	◎	○	○
社会福祉学演習5	演習	4	2	プレゼンテーションやディスカッションを通じ自身の研究を精緻化し、卒業論文の完成をめざす。	1. 策定した研究計画に沿って、研究活動を遂行する。 2. 研究論文(12000字以上)の執筆を完了する。 3. 論文の内容についてプレゼンテーションを行ったり、ディスカッションを行う技量を身につける。	◎	◎	◎	◎	◎
人体の構造と機能及び疾病	講義	2・3・4	2	保健・福祉・教育の領域で必要とされる医学に関わる知識を習得する。	1. 人体の構造や機能について理解する。 2. 人の成長・発達・老化について理解する。 3. 疾病について理解する。 4. 障害について理解する。 5. 疾病と日常生活行動に関する知識について理解する。 6. ICF・リハビリテーション・健康について理解する。	○	◎	○		○
社会理論と社会システム	講義	1・2・3・4	2	ミクロレベルからマクロレベルに至る社会システムの構造と、近代化・産業化・情報化を基軸とする社会システムの変動を現代社会学の社会理論によって把握する。また、理論の紹介にとどまらず、現代社会をめぐる具体的な社会事象、社会問題も考察する。	1. 現代社会学の概念と理論についての基礎的な理解をする。 2. 具体的・現実的な現代社会の事象に関する知識、認識を理解・習得する。	◎	○	○		
社会保障論1	講義	2・3・4	2	社会保障の全体像を把握することを目指すとともに、所得保障、とくに公的年金制度(国民年金、厚生年金など)の基礎的知識を獲得し、その理解を深める。	1. 人口減少下の日本社会が抱えるリスクについて基本的理解をする。 2. 社会保障の体系、役割について基本的な知識を獲得する。 3. 公的年金制度の仕組みと課題について理解する。	◎		○		○
社会保障論2	講義	2・3・4	2	医療・介護保険、労働保険の基礎について学習するとともに、少子高齢化の進展に伴って社会保障制度がどのような課題を抱えているかを考える。	1. 医療・介護保障の基礎的な知識を獲得する。 2. 労働保険の基礎的知識を獲得する。 3. 少子高齢化が進展する中で社会保障制度が抱えている課題について考えるようになる。	◎		○		○
社会福祉調査法	講義	3・4	2	ソーシャルワーカーとして、専門性の高い実践は、論拠に基づいたものであることが前提とされる。そのため、論理的手続きに沿った量的・質的調査に関する知識と、調査を実施する際の具体的な方法について、学んでいく。	1. 社会福祉調査の意義と目的の概要について理解できる。 2. 社会福祉調査において、なぜ倫理や個人情報保護が必要なのか理解できる。 3. 量的調査の理論と方法について理解する。 4. 質的調査の理論と方法について理解する。	○	◎	◎		
ソーシャルワーク論1	講義	1・2・3・4	2	社会福祉における専門職による援助活動や実践体系を表すソーシャルワークについて基本的な知識を身につけ、専門的な援助の方法や課題について理解する。	1. 社会福祉とソーシャルワークの関係を学び、ソーシャルワークの形成過程を理解する。 2. 社会福祉における対人援助職の根拠法を学び、ソーシャルワークの定義を理解する。 3. ソーシャルワークの専門的価値と倫理綱領を理解する。 4. ソーシャルワークにおける社会正義と人権尊重の意味・方法・課題を理解する。	○	○	○		◎

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)									
ソーシャルワーク論2	講義	1・2・3・4	2	個人から社会への視点の広がりやソーシャルワーク、相談援助専門職の概念と範囲の整理、今日的な課題として総合的かつ包括的な相談援助、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、職種間協働について学ぶ。	1. ソーシャルワークの意味・目的・方法・視点の広がりを理解する。 2. 社会福祉制度改革によるソーシャルワーク実践の転換と新しいソーシャルワーク実践の動向を理解する。 3. 多職種、多機関との連携の目的と方法、ソーシャルネットワーキングの目的と方法を理解する。 4. 総合的かつ包括的な相談援助の意味・目的・方法を理解する。	○	○	○	◎		
ソーシャルワーク論3	講義	2・3・4	2	援助関係の本質と形成の仕方について学び、専門的援助関係を基礎に展開される相談面接の技術について実践的に学ぶ。さらに、専門的援助が展開されるプロセスについて学ぶ。	1. ソーシャルワークにおける援助関係について、具体的に理解できる。 2. ソーシャルワークにおける面接技術について理論的・実践的に理解できる。 3. ソーシャルワークのプロセスとそれに係る知識と技術について理解できる。	○	○	◎	◎		
ソーシャルワーク論4	講義	2・3・4	2	クライアントが置かれた状況を理解するための枠組みである「実践モデル」と、多様な援助方法である「実践アプローチ」について理論的に学び、クライアント・家族のもつ問題に応じてそれらをどう使い分けるかということについて学ぶ。	1. ソーシャルワークとは何かについて説明できる。 2. 人と環境の交互作用とは何かについて理解できる。 3. 相談援助における様々な実践モデルとアプローチについて理解できる。 4. また実際の場面に応じてアプローチを使い分けることがわかる。	◎	◎	○	○		
ソーシャルワーク論5	講義	3・4	2	ソーシャルワーカーとクライアントやその家族との関係だけではなく、ソーシャルワーク援助に不可欠な、集団を用いた援助方法を理解するとともに、ソーシャルネットワークの構築や関連機関との連携、そして、スーパービジョン、記録がソーシャルワークにとってどのような意味をもつのかを理解する。	1. グループワークの意義・目的・方法を理解する。 2. 多職種、他機関との連携の目的と方法、ソーシャルネットワーキングの目的と方法を理解する。 3. スーパービジョンの目的・方法を理解する。 4. ソーシャルワークの記録の意義・種類・活用方法について学び、適正な記録作成ができる。	○	○	○	○	◎	
ソーシャルワーク論6	講義	4	2	事例分析等を通じて、ソーシャルワークの知識と理論、方法及び倫理を統合して援助を展開できる能力を養う。	1. 福祉問題が生成する構造について理解する。 2. 児童・高齢・障害領域等の事例に対して、適切な支援方法を考察することができる。 3. 個人情報保護について理解する。 4. 社会資源を活用し、他領域の専門職と連携する方法について理解する。	○	○	○	○	◎	
地域福祉の理論と方法1	講義	2・3・4	2	社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の理念と内容、現状と課題について学ぶ。	1. 地域福祉の基本的な考え方について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る機関、団体、組織、専門職などその役割について理解する。	○	◎	◎	○	◎	
地域福祉の理論と方法2	講義	2・3・4	2	社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の推進方法、その現状と課題について学ぶ。	1. 地域福祉におけるネットワーク(多職種連携などを含む)とその意義、内容、実際について理解する。 2. 地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用と開発、ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、地域におけるサービスの評価方法など)について学ぶ。	○	◎	◎	○	◎	
福祉行財政と福祉計画	講義	3・4	2	相談援助をスムーズに実践していくうえで必要となる、福祉の行財政の実施体制、さらに福祉計画について理解する。	1. 福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。)について理解する。 2. 福祉行財政の実際について理解する。 3. 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	○	◎	○	○	◎	
福祉経営論	講義	4	2	福祉サービスの適切かつ効果的な提供には、それを担う組織が必要であり、それをいかにする体制でつくりどう運営するかが大きな課題である。こうした課題の重要性と組織運営の基礎理論や実際に関する理解を図り、組織社会で仕事をしする際の基礎的な知識習得を目的とする。	1. 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。 2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 3. 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。	○	◎	○	○	◎	
障害者福祉論	講義	1・2・3・4	2	障害者福祉を学ぶ意義を理解し、現代社会における「障害の捉え方」と障害者施策の概要について、法律・制度を中心に学ぶ。	1. 障害者福祉の歴史的展開について理解する。 2. 日本の障害者福祉施策を理解する。 3. 障害者福祉サービスの支援内容と課題を理解する。	◎		○		○	
児童福祉論	講義	1・2・3・4	2	児童の権利について理解を深め、現代社会における児童及び児童福祉政策の現状と課題について学習する。	1. 児童の特性について理解する。 2. 児童の権利について理解する。 3. 児童福祉の史的展開について理解する。 4. 児童福祉問題の現状と背景、解決策について学ぶ。	◎		○		○	

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)									
高齢者に対する支援と介護保険制度1	講義	1・2・3・4	2	少子高齢社会の特徴と課題を明らかにする。高齢者支援の歴史や法制度について学習する。	1. 高齢者への理解を深める。 2. 少子高齢社会における高齢者への支援方法としての介護過程・介護予防・終末期ケアについて理解する。 3. 相談援助活動で必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護にかかる法制度について理解する。	◎		○		○	
高齢者に対する支援と介護保険制度2	講義	1・2・3・4	2	高齢者に関わる福祉制度の体系について介護保険制度を中心に学び、支援方法について学習する。	1. 介護保険法の構成や運用方法について具体的に理解する。 2. 高齢者支援の現場におけるネットワークやチームケアについて理解し、具体的な連携方法について修得する。 3. 地域包括ケアについて理解する。 4. 高齢者の健康や尊厳を保持するための諸制度とその活用法について理解する。	◎	○	○	○	◎	
公的扶助論	講義	2・3・4	2	貧困・低所得についての基本的な理解を深め、生活保護制度の仕組みを理解するとともに、生活保護対象者や生活保護政策の動向について学習する。	1. 現代社会の中の貧困問題の実態、背景について理解する。 2. 日本の生活保護制度の仕組みについて理解する。 3. 日本の生活保護制度の意義と課題について理解する。	◎		○		○	
医療社会福祉論	講義	2・3・4	2	保健医療サービスの体系として保健医療制度の枠組みを学び、患者・家族の生活を支援する医療社会福祉の役割を理解する。	1. 患者・家族が保健医療サービスを有効に活用するために必要なわが国の保健医療制度の体系を理解する。 2. 医療を必要とする患者・家族の生活を支援するために社会福祉実践がどのように展開されているかを理解する。 3. 療養を支援する医療ソーシャルワーカーや専門職の役割とチーム医療・連携の概念について理解する。	◎	○	◎			
就労支援論	講義	2・3・4	2	就労支援論を学ぶ意義を理解し、現代社会における「労働観」と社会状況について、法律・制度を中心に学習する。	1. 労働問題のとらえ方、現代社会の労働環境について理解する。 2. 障害者や高齢者の就労状況及び課題について理解する。 3. 就労支援制度の内容と意義について理解する。	◎	○	◎			
権利擁護と成年後見制度	講義	2・3・4	2	社会福祉の権利構造および権利擁護の実践的関わりについて、法律・制度を中心に学ぶ。	1. 社会福祉の基礎となる基本的人権について理解する。 2. 人権侵害の歴史について理解する。 3. 権利擁護の歴史的背景と現代的課題を把握する。 4. わが国の権利擁護施策とその課題を理解する。	○		○	◎	○	
ソーシャルワーク演習1	演習	2	2	相談援助に関する基礎的な知識・技術を理解し、実践的に習得することを目的とする。	1. 社会福祉の価値・倫理を理解する。 2. 自己覚知の意義と方法を理解する。 3. 基本的なコミュニケーション(面接)技術を身につける。			◎	○	○	
ソーシャルワーク演習2	演習	2	2	インテークからアフターケアまでの相談援助(面接)の展開過程を理解し、問題解決に向けた思考・判断を行っていく能力を養う。	1. ソーシャルワーク過程の概要を理解する。 2. インテーク・アセスメント(マッピング)・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果測定・終結までの具体的な方法について理解し、実践する。			◎	○	○	
ソーシャルワーク演習3	演習	3	2	相談援助に関する具体的な事例・実態とともに、相談援助実践で用いられる各種の実践モデルやアプローチを学び、相談援助実践を理解し問題解決を図っていく上で必要となる能力を身に付ける。	具体的な事例(貧困・虐待など)に対して、ソーシャルワークの各種実践モデルやアプローチに基づいた援助展開を行うことができる。	○	◎	◎	○	○	
ソーシャルワーク演習4	演習	3	2	社会福祉士(ソーシャルワーカー)に求められる相談援助に関する知識と技術を実践的に習得し、これらを専門的援助技術として概念化・理論化・体系化していくことができる能力を培う。	1. 具体的な事例に対して、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークの技法を駆使し、適切な援助展開を行うことができる。 2. ソーシャルワークの援助展開に関して言語化し、説明責任を果たすことができる。	○	◎	○	◎	○	
ソーシャルワーク演習5	演習	4	2	社会福祉士(ソーシャルワーカー)に求められるソーシャルワークに係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。とくに、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用しながら、コミュニティソーシャルワークについて学ぶ。	1. コミュニティソーシャルワークのプロセスについて学ぶ。 2. 地域住民のニーズの把握、アセスメントの方法について学ぶ。 3. ソーシャルサポートネットワーク等ネットワーキングに係る知識・技術について理解する。 4. 地域における社会資源の活用・調整・開発に係る知識・技術について理解する。 5. 地域における福祉サービスの評価に係る知識・技術について理解する。	○	◎	◎	○	◎	

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)									
ソーシャルワーク実習	実習	3	4	ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワーク(相談援助)に係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	1. 配属実習先の状況、機能等について理解する。 2. 配属実習先の職員の構成、職務について理解する。 3. 利用者とのコミュニケーションを通じて、ラポールを形成できるようにする。 4. ソーシャルワーカーに求められる援助技術を体得する。 5. ソーシャルワーカーに求められる価値・倫理について理解を深める。	○	◎	◎	○	◎	
ソーシャルワーク実習指導1	演習	2	2	「ソーシャルワーク実習」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、事前学習を中心に授業をすすめる。	1. ソーシャルワーク実習の意義を理解する。 2. ゲスト講義等を通じて、福祉現場の現状や課題について实际的に理解する。 2. 社会福祉専門職として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を身につける。		◎	○	○		
ソーシャルワーク実習指導2	演習	3	2	「ソーシャルワーク実習」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、個々の実習配属先に対応した事前学習を進める。	1. 配属先の事業所・施設等に関する理解を深める。 2. 適切な実習テーマを設定する。 3. 実習スケジュールに適應した実習計画を策定する。		◎	○	○	○	
ソーシャルワーク実習指導3	演習	3	2	「ソーシャルワーク実習」と連動させ、社会福祉機関・施設における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、個々の実習配属先の状況及び実習経験に基づいた事後学習を進める。	1. 実習経験について適切に記録し、言語化することができる。 2. 実習配属機関の現状、利用者の状況及び課題等について考察することができる。 3. 実習中及び実習後の課題について考察し、課題を達成する方策について提示することができる。 4. 上記の事例についてプレゼンテーションを実施し、他の履修生と共有できる。		◎	○	○	○	
精神疾患とその治療1	講義	2・3・4	2	職業上など何らかの理由で必要となる精神科学の知識について理解する。	1. 精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療について理解する。 2. 近年、診断体系がめまぐるしく変化し、また生物学的研究の進展に伴い、精神科学におけるパラダイムが急速に変貌を遂げつつある現状を理解する。 3. 精神医療の歴史と診断、治療についての重要事項を理解する。 4. 精神疾患の症状と治療について、統合失調症を中心に理解	◎	○				
精神疾患とその治療2	講義	2・3・4	2	精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療についての概略を中心に学ぶ。	1. 精神科学分野における主要な状態や疾患の疫学、病因あるいは治療について理解する。 2. 精神疾患の症状と治療について、気分障害、うつ、認知症、神経症、児童思春期精神疾患を中心に理解する。	◎	○				
精神保健の課題と支援1	講義	3・4	2	すべての国民の精神的健康が課題となっている現代において、従来の精神障害者への支援だけでなく、新たに生じる精神保健問題にも対応していく専門職として、精神の健康についての基本的知識と、精神保健学の歴史を学ぶ。また、社会環境の変化を通して精神保健を理解し、「精神的健康」への理解力、思考力を深める。適宜事例等を通して、精神保健問題を身近な問題として関心を深める。	1. ライフサイクルにおける精神発達課題について、社会環境の変化を見据えながら理解する。 2. 精神保健の視点からの家庭・家族の問題と課題、学校教育における精神保健問題の現状と取り組みの実際、労働環境の変化と勤労者の精神保健問題の現状と取り組みから、精神保健の現状と課題を理解する。	○	◎	○			
精神保健の課題と支援2	講義	3・4	2	すべての国民の精神的健康が課題となっている現代において、従来の精神障害者への支援だけでなく、新たに生じる精神保健問題にも対応していく専門職としての精神保健福祉士の役割は拡大している。社会環境の変化を通して精神保健を理解し、「精神的健康」への理解力、思考力をさらに深めることを目標とする。	1. 現代の重要な精神保健問題となっている、アルコール関連問題、薬物問題、自殺等の現状、取り組み、課題を理解する。 2. 新たな課題となる災害支援、犯罪被害者支援、性同一性障害等についての理解、対応を理解する。 3. 地域精神保健に関する諸活動の実践を通して、精神保健の維持・増進のために機能する専門機関、関連職種との役割と連携について理解する。 4. 主要各国の精神保健の取り組み、世界保健機関(WHO)の活動を学び、これからの精神保健の課題と支援を理解する。	○	○	◎	○	○	
精神科ソーシャルワーク論	講義	2・3・4	2	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と、相談援助の概要について理解を進める。精神保健福祉士が配置された機関における多様な援助の内容や、援助の方法を理解する。精神障害者の権利擁護の意義、および医師、看護師、臨床心理士などの他職種との連携の意義と内容についても学習する。	1. 精神科ソーシャルワークの目的と対象、援助における価値や視点などとともに、精神科ソーシャルワークの専門性を理解する。 2. 精神科医療機関や行政機関、地域の精神障害者生活支援センターや通所授産施設などにおいて行われる相談援助の内容を学び、精神障害者の生活支援について理解する。 3. 精神科ソーシャルワークで協働する専門職者とのチームアプローチの概要を理解する。 4. 精神障害者処遇の歴史や、精神科医療施設が入所者に与える影響についても学ぶ。	○	○	○	◎		

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)									
精神保健福祉の理論と相談援助の展開1	講義	2・3・4	2	精神保健福祉援助技術各論と精神科リハビリテーション学を統合した科目であり、精神保健福祉士としての、総合的な実践活動の理論や技術の基礎を習得する。	1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的な考え方について理解を深める。 2. 精神科リハビリテーションの概念やプロセス等、相談援助のプロセス等について理解する。 3. 理論や技術が、現場でどのように生かされ実践が行われているのか理解を深める。	○	◎	○			
精神保健福祉の理論と相談援助の展開2	講義	2・3・4	2	精神保健福祉援助技術各論と精神科リハビリテーション学を統合した科目であり、精神保健福祉士としての、総合的な実践活動の理論や技術の活用について習得する。	1. 精神医療の特性と精神障害者に対する支援の基本的な考え方について理解を深める。 2. 精神科リハビリテーションの概念やプロセス等、相談援助のプロセス等について理解する。 3. 理論や技術が、現場でどのように生かされ実践が行われているのかを、精神保健福祉士の実際の業務や事例等を通して理解を深める。	○	◎	◎	○		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開3	講義	3・4	2	精神障害者やその家族に対するソーシャルワーク援助を行う際に必要とされるソーシャルワーク理論や方法論を学習し、援助を必要とする対象者の持つニーズに則した適切なアセスメントとソーシャルワークプランの作成、そして援助介入の実行が可能な実践者となる上での、基本的な知識と視点を得る。	1. 精神障害者処遇の歴史を概観した上で、精神障害者の生活支援について検討できる。 2. 精神障害者のリハビリやストレスに注目した上で、地域リハビリテーションの代表的なモデルであるクラブハウスモデルを理解できる。 3. 精神障害者を地域で支える上で欠かせないソーシャルサポートネットワークの理論を学ぶとともに、障害者のセルフヘルプ・ピアヘルプを理解できる。 4. 今後の増加が予測される高齢精神障害者の課題について考える力を身につける。	○	◎	○	◎		
精神保健福祉の理論と相談援助の展開4	講義	3・4	2	精神障害者やその家族に対する援助実践を行う際に必要とされる理論や方法論を学習し、援助の対象となる人々のもつニーズに即した適切な援助計画の策定と実行が可能なための、基本的な視点と知識を得る。	1. ソーシャルワークの実践理論やモデルの概要を学び、それらと比較理解する。 2. ソーシャルワークの根源的な価値と倫理について理解する。 3. ソーシャルワーク実践のプロセスと面接技法について理解する。 4. 精神障害者の地域移行と精神保健福祉士の役割を理解した上で、精神障害者が地域生活を維持し続けるための援助機能であるACTプログラムについて理解を深める。 5. 地域で精神障害者の生活を支援する目的で行うネットワーキングの概要を理解する。	○	◎	○	◎		
精神保健福祉に関する制度とサービス1	講義	2・3・4	2	現場の精神保健福祉士の、価値と倫理に基づき、クライアントのためにこれらを活用する実践と結びつけながら、精神障害者がこれまで置かれてきた状況、現状を理解し、制度やサービスを生きたものにするために、必要な知識と技術について学びを深める。	1. 精神保健福祉法成立までの経過、精神保健福祉士の役割、精神保健福祉施策の概要、社会保障等について理解を深める。 2. 精神保健福祉士がどのようにかわり、今後の展開を考えてゆけば、単なる知識の習得に終わらぬよう実際の業務や事例をもとに考えることができる。	◎	○	○			
精神保健福祉に関する制度とサービス2	講義	2・3・4	2	現場の精神保健福祉士の、価値と倫理に基づき、クライアントのためにこれらを活用する実践と結びつけながら、精神障害者がこれまで置かれてきた状況、現状を理解し、制度やサービスを生きたものにするために、今後の課題と展開について学びを深める。	1. 相談援助にかかわる組織や関係機関等、更生保護制度、医療観察法、社会調査等について理解を深める。 2. 精神保健福祉士がどのようにかわり、今後の展開を考えてゆけば、単なる知識の習得に終わらぬよう実際の業務や事例をもとに考えることができる。	○	◎	○	○		
精神障害者の生活支援システム	講義	2・3・4	2	精神保健福祉士にとって、「生活支援」は欠かせないものであるが、精神障害者の生活支援の意義と特徴、実態について理解する。また、その生活のしづらさを少しでも改善するためにはどのような支援が必要となるのか、今後の課題や展開について具体的に考える力を養う。	1. 精神障害者の生活の実際、人権、居住支援、就労支援等について理解する。 2. 精神保健福祉士の実際の業務や事例から、自分なりに考えて理論と実践を結びつけられるよう理解を深める。	○	○	○	◎	○	
精神保健福祉援助演習1	演習	4	2	基本的な対人援助技術の習得と精神保健福祉士養成の指定科目群についての総合的理解を深める。 精神保健福祉の現場で、精神保健福祉士がどのような実践を行っているのか、事例などを通して学ぶ。	1. 現場での事例などを学び、グループワークやロールプレイなどの演習形態により、学生自身が積極的に授業に参加し理解する。 2. 現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこない、役割を担っているのか等をイメージし、自分ならどう考え行動するかを表現できる実践的な理解を深める。	○	◎	○	○	○	
精神保健福祉援助演習2	演習	4	2	現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこない、役割を担っているのか等をイメージし、自分ならどう考え行動するかを表現できる実践的な理解を深める。	1. 現場での事例などを学び、グループワークやロールプレイなどの演習形態により、学生自身が積極的に授業に参加し理解する。 2. 現場での精神保健福祉士がどのような実践をおこない、役割を担っているのか等をイメージし、自分ならどう考え行動するかを表現できる実践的な理解を深める。	○	◎	○	○	○	

科目名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(社会福祉)の学位を授与します。 ①現代社会における生活上の諸課題を正しく理解し、分析する知識を身につける(知識) ②生活問題を多角的に分析し、支援するための方法を身につける(技術) ③生活上の諸課題とその解決方法について考えることができる(思考) ④社会福祉の価値や倫理を身につける(態度) ⑤実践力を有する福祉専門職または社会福祉の視点をもつ市民として行動することができる(行動)									
精神保健福祉援助実習	実習	4	5	適切な実習課題を立て、現場での実習をとおしてそれらの課題を遂行しつつ専門職として有しておかなければならない職業倫理・専門的知識・専門的技術を概念化し、理論化できるようにする。また、実習の全プロセスを通じて、精神保健福祉士として求められる資質や自己に求められる課題についても理解していく。	1. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的なかつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。 2. 精神障害者のおかれていた現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に経験して、実習指導者による指導を受ける。	○	◎	◎	◎	○	
精神保健福祉援助実習指導1	演習	3	2	「精神保健福祉援助実習」と連動させ、精神科病院等の病院・精神科診療所・地域の障害福祉サービス事業を行う施設等における配属実習が効果的に進められ意義あるものとなるよう、事前学習を中心に授業をすすめる。	1. 精神保健福祉援助実習の意義を理解し、これまで学んできた専門知識・技術および関連知識について、現場実習を通して、より具体的なかつ实际的に理解できるようになる。 2. より実践的な技術を体得できるようになる。 3. 精神保健福祉士として求められる資質、技術、倫理等、総合的に対応できる能力を修得する。	○	◎	○	○		
精神保健福祉援助実習指導2	演習	4	2	実習課題の選び方や課題達成の方法、記録の書き方等を学習しながら各自が自らの実習目標を定め、適切な実習計画を作成する。その過程で、必要となる専門知識・専門技術を段階的に習得していく。また、実習に向けてのグループ学習や個別指導を通して、精神保健福祉士として身につけておくべき職業倫理を理解する。	1. 精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識および技術を以って精神障害者の社会復帰に関する相談援助を行えるよう、講義、ディスカッション、視聴覚教材、見学実習等を通して援助技術が実際にどのように現場で用いられているのかを理解する。 2. 来るべき実習に対する準備を行い、実習のイメージがつかめるようになる。	○	◎	○	○		
精神保健福祉援助実習指導3	演習	4	2	配属実習における体験や援助経験を概念化し、理論化することができるように学習をすすめる。また、精神保健福祉士としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を修得できるようにする。	1. 精神保健福祉援助実習終了後のふりかえりを行う。 2. 実習の事後学習をとおして、将来の援助者としての自覚を促していく。	○	◎	○	○		
介護理論及び介護技術	講義	2・3・4	2	介護福祉に対する広い視野と深い考察力を養う。対人援助のスキルを習得する。	1. 介護福祉の政策動向や介護問題の背景について理解する。 2. 介護福祉の歴史・倫理・理念について理解する。 3. 生活障害と具体的な支援方法について理解する。 4. 地域包括ケアにおける連携と協働について理解する。 5. ケアに携わる人の健康と安全。	◎	○	◎	○	○	
加齢及び障害に関する理解	講義	2・3・4	2	老化や障害を起因とする社会生活への影響を理解し、人権尊重を基盤とするケアの方法について学ぶ。	1. 老化に伴う疾患や生活への影響について理解する。 2. 先天性の機能不全について理解し、生活への影響を理解する。 3. 障害が及ぼす社会生活への影響を理解し、支援方法について修得する。	○	◎	◎	○	○	
介護基礎実習(事前事後指導を含む)	実習	3	2	教科「福祉」を取得する上で必要となる、社会福祉実践現場での介護等の体験学習を通して、社会福祉の向上を図る実践的な能力と態度を身につける。また教科「福祉」を教える力を育てる。	1. 実習に必要な教科「福祉」に関する知識や技術の確認ができる。 2. 社会福祉施設での介護実習での体験学習を通して学びについて言語化できる。 3. 実習を振り返り、教科「福祉」を教える上での自己の課題が明確化できる。	○	◎	○	○	○	
福祉科指導法1	講義	3	2	高等学校における教科「福祉」教員免許取得をめざす者を対象として、福祉について教え伝えることの意味や目的、福祉教育の意義を考えたながら、福祉科教育の理論と実際について学ぶ。	1. 高等学校教科「福祉」の理念や指導内容等についての基本的理解をする。 2. 高校生の福祉観について理解を深める。 3. 福祉科の学習指導方法について体験的・実践的理解をする。	◎	○	○		○	
福祉科指導法2	講義	3	2	高等学校における教科「福祉」教員免許取得をめざす者を対象として、福祉について教え伝えることの意味や目的、福祉教育の意義を考えたながら、より実践的な福祉教育の方法を体得する。	1. 教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の提供の仕方などについて理解する。 2. 社会資源を活用した福祉教育の方法について理解する。 3. 講義・演習形式の模擬授業をつうじて、高等学校における教育実習を見学した教育実践力を身につける。	○	◎	○		○	
卒業論文		4	8	4年間の学習成果を集大成する研究活動である。先行研究をふまえながら、各自の関心に沿った社会福祉分野の問題設定をし、それに合った手法で解決策が提示され、学術的論文が作成できることを目指す。	1. 先行研究の文献調査ができる。 2. 社会福祉学の研究手法を習得する。 3. 独自の意見を論理的に構成し研究論文が作成できる。	◎	◎	◎	◎	◎	